

三一九九番

海の底わたそこ 沖は恐しおきかしこ 磯廻りいそみより 漕ぎたみ行かせここ
月は経ぬつきへとも

三二〇〇番

飼飯の浦けひうらに 寄する白波よしらなみ しくしくに 妹が姿いもすがたは
思ほゆるおもかも

三二〇一番

時つ風ときかせ 吹飯の浜ふけひはまに 出で居いでゐつつ 贖ふ命あかいのちは 妹いも
がためこそ

三二〇二番

熟田津にきたつに 舟乗りせむとふなの 聞きしなへき なにかも
君がきみ 見え来みこざるらむ